

今野：ちょっといいです？

野村：どうぞ

今野：その話し合いの帰りに、「落札業者の I T ネットの企画立案書だけでいいですよ？」って確認したと思うんですね。帰りに。

野村：えっ？

今野：帰りに。

野村：IT ネットなに？

今野：IT ネットの企画立案書を、今回、開示するっていうことでいいですよ？って

野村：記憶ありません。言ったかもけど、言ってないかもしれない。ちょっと記録をちゃんと見ないとわからない。いま持ってきてないの？ 記録は。あなたが持っているんですか。

今野：いやそれで今回・・・

野村：記録がないものは、はっきりわからない。ただ経緯を言えばね、「全ての」に対してね、1回目2回目はね、1回目でね、限定されたから、「それは対象にならない」と、言われたから、「全て」に書き直したんですよ。全てを出せばですね。不足があったから、おかしいことがあったから、9月の2日に打合せをしてね、もう1回（不明）が発覚したんですよ。どっちにしろ、9月の2日に、（不明）が発覚したんだから、あのね、あなたがおっしゃるようなことがあったのかもしれない。あったのかもしれない。ただ僕がもしそのときにね、そうだとやってるとしたらね。なんだ、結局、プロポーザルの資料、さっき何て言いましたっけ？

今野：企画立案、企画立案書。

野村：企画、企画立案書？ちょっとよくわかんない。本当に覚えてない 企画立案書とか。僕はプロポーザルの資料が何なのかわからない。からね、多分そこで安易な返事はしないと思う。「全ての書類」だから当然ね、あのプロポーザルの資料があってね、その 630 万円に積み上げる見積書、数字を示す書類

告176-7  
(告176-3の反訳)

があって、何があるか分からないから、僕は安易に「ウン」とは言わないと思います。言ってたとしたら、言い間違い、聞き間違いがあったのかもしれませんが。いずれにしろね、他のやつがなければ比較ができない。他のやつもないと困ります。